

## 大宰府アカデミー・令和編 第15講 令和6年6月19日(水)質問及び回答(Q&A)

### 「鎌倉時代の大宰府 ～少弐氏と蒙古襲来～」

講師・回答：服部 英雄先生(九州大学名誉教授)

この度は大宰府アカデミー・令和編を受講いただき誠にありがとうございます。  
皆様からいただきましたご質問につきまして回答いたします。  
なお、ご質問につきましては、抜粋して掲載しておりますことをご了承ください。

Q/ 先生が講座の最後にお話しをされていた「神風」に関連して質問します。「弘安の役」の際、竹崎季長が参戦した博多湾の戦場ではとりたてて荒天ではなかった(だから絵詞には描かれていない)、しかし鷹島では暴風が吹き、多くの船が沈んだ、という理解でよいのでしょうか？

### A/ 回答

台風については、京都の記録に「自上古第三度」と書かれており、超大型台風でしたから、日本全土に大きな被害を与えたと考えています。講座でも「荒天ではなかった」とは申し上げなかったし、蒙古船が多数沈んで戦局に大きな影響を与えたこと、また蒙古軍が引き上げる要因になったことまで否定するものではありません。

ただし台風通過は閏七月一日、生の松原・博多湾海戦は閏七月五日で、絵詞を見る限り蒙古船団は健在です。また、鷹島海戦は閏七月七日ですから、やはり閏七月一日に壊滅してはいません。さらに日本側の船が不足していたことは、季長が乗る予定の(安達盛宗)兵船 A の遅延、沖合にいた安達の大型兵船 B が季長一行わずか五人ほどの乗船を拒否したこと(過積載・定員オーバーのため)から推測できます。つまり日本側の船も台風被害に遭っていたのです。季長は、大風のおかげで勝ったとは考えず、自分たちが戦って相手を倒したと考えていましたから、絵詞を作成したのです。

Q/ 「蒙古襲来絵詞」の絵師は誰だったのでしょうか？竹崎季長がいわば「戦場カメラマン」的に連れていった配下の絵師だったのでしょうか？絵師自身が戦場にいたということでしょうか？

A/ 回答

絵詞を描いた絵師は、少弐景資の馬具足を見て似絵を描いていますから、大宰府にいたと考えます。大宰府には画工司があって、大宰府が「戦場カメラマン」＝従軍絵師を派遣したと推測します。彼らは多くの戦場スケッチを画工司に残していました。本来なら大宰府画工司が本業として合戦絵巻を作成したはずで、その準備中であつたか、またはすでに作成していたかもしれません。竹崎季長は、その大宰府絵師に絵詞作成を依頼したと推定しています。

※ ご質問ありがとうございました。